

ちよあ

第9号

月報弘会精岳田代平千成1年9月



宗家の吟

道六十五周年を記念す

今年の大會場は、全国から集まつた二、〇〇〇人を超える参加者の熱氣で溢れました。第一部は、全参加者が会、支部毎の壇上での合吟でしたが、十番目に登壇した千代田岳精会は、百十名が飯田会長の先導で「夜墨水」

ミレニアムの夏はゆく

—詩を吟じつづけ—

会長 飯田 龍鷹

宗家吟道六十五周年全国大会開催、石の上にも三年、筆法十年とか、何事も本格指向の基本年数だが、六十五年とは道の究みとて、燐然と輝く金字塔である。

五十五年前の夏の大東亜戦争の激戦地沖縄でミレニアムサミットが開催された。全世界に、沖縄のそして日本の平和の願いと祈りを届けようと悲壮な決意をされた、亡き小渕前総理提唱の地である。サミットの成功と小渕さんのご冥福を祈るや切である。

茲で、宗家横山岳精作の吟声が響き渡る。

勝ちし人も敗れし人も今はなし
沖縄の海は静かなりけり
宗家の「吟こそ折り」「吟こそ命」の朗々と耳朶を打つ名作である。
千代田の大会における合吟「夜墨水を下る」は総勢百十名、千代田員に言わしむれば、檜舞台狭しと威風全堂を圧すと。

昭和天皇御製
山百合の花咲く庭にいとし子を
慎みて、香淳皇后のご冥福をお祈り申し上げます。

大会二日後、井田岳精会前会長朝倉精照先生が亡くなられ、七月廿日、二十周年に併せて追悼大会が開かれました。「山百合の」を吟じて悼意を捧げました。

折もおり暑い日に、聞こえたC Dの流れ、国民歌謡「白百合」のメロディが悲しく寂しかった。

今年も千代田は会場係として、その奉仕の精神と秩序の維持等に感謝されました。

この夏、皇太后良子様がご逝去されました。何時もふくよかな笑顔、その日本の母、日本婦人のゆかいな愛の姿をうたつてやまぬ、

夏は逝けども戦場に
白百合の花匂うなり
清き白衣の赤十字
姿やさしく匂うなり

宗家はご挨拶で「平和への願い愛する日本への深い想いと感謝、そして内から支えてくれた奥様への感謝」の気持ちを述べられ、特別企画での若々しい声の短歌、俳

を下る」服部南郭作を声高らかに吟じ、その迫力は圧倒的と好評でした。第三部の式典では来賓の方々から宗家の長年に亘る吟道振興への功績を称え、ご健勝を祈る暖かい言葉が続きました。

宗家はご挨拶で「平和への願い愛する日本への深い想いと感謝、そして内から支えてくれた奥様への感謝」の気持ちを述べられ、特別企画での若々しい声の短歌、俳

平和、愛する日本への想いと感謝

宗家吟道六十五周年記念全国吟道大会参加者へ深い感銘

句と合わせて、参加者全員の心に深い感銘を残しました。

また、得難い高いレベルの、密度の濃い体験をさせていただきました。それは他流派の方々の招待吟詠、招待剣詩舞、スライド構成

吟、榎原舞踊団の「日本を舞う」が素晴らしいからです。

今大会でも、当会は三年連続で会場係を担当、大熊リーダーの指揮で、前日の準備から、当日の警備、後片づけまで遺漏無く終了し、宗家より会長にお礼と労いの言葉がありました。

二日間にわたり取り組んで頂いた皆さんご苦労さまでした。

全国大会 宗家挨拶に思う

清水教場 大根 鉢泉

宗家の吟道六五周年記念全国大会が川崎市教育文化会館に於て盛大に行なわれた。私は此の大会が宗家六五周年と銘打ったその名に相応しいすばらしい大会であった。私は此の大会が

○○○人の参加者、特に私自身、どんな事を言われるか興味を持つた。

一、全体に流れていたものは感謝の念である。

宗家は自分の師は木村岳風先生であり、毎朝手を合わせて感謝の念を捧げていると言わたった。宗家はお陰であると何回も言われた。そして多少の照れを交えられんお陰であると何回も言われた。奥様の内助の功に感謝し、一諸会員に対し今日あるのは皆さうに立ちたかったとも言われた。挨拶は感謝の念で貫かれており宗家のお人柄が極めて純粹である事に清々しさを感じた次第である。

「俺は声と音感に恵まれたの親に感謝しよう」
「俺は詩心をどう表現するか努めなかろうか。」

めてきた、自分に感謝したい」

（ア）宗家の言葉は終始簡潔明瞭であるから実際に聞き易い、形容詞を省いて言葉数を少なくして

（イ）人に借りた言葉や、難しい言葉がない、自分の考えを言葉に出している。

（ウ）原稿は見ない、原稿は考えを纏めるための手段である。壇上に立てば原稿なしで整理されたものを体全体で聴衆にぶつける方が説得力は有るし、感銘を与える。

以上、生意気な宗家挨拶に対する私の感想である。

大会で企画されたスライド構成吟も、宗家ご自身の工夫がありありと見られ、更に最後の短歌、俳句には優しいお人柄が滲み出しており、作られた当時の情景が浮んで家に対する親しみが増した。どうか、愈々長命であらん事を祈るばかりである。

健康の妙薬であると言うことを思いました。

来賓の中で特に丘灯至夫先生のユーモア溢れる祝辞が印象的です

招待吟詠は各流派の会長、理事長の先生方で素晴らしい、招待剣事で、宗家先生の吟詠は日本を愛し、日本人の心を強調しておられ

詩舞の吟舞も感動的でした。

「日本を舞う」の榎原舞踊団も見事に一杯。選挙も気になつたが、ひと風呂浴びたらバタンキュー。

やれやれお疲れさまでした。
わせてパクパク（口元が見える位置で良かつた）。
次は客席出入り口警備、舞台は趣向を凝らして中々立派だが、一日中の詩吟漫遊には些か疲れた。終了間際より片付け開始、順調に進むも最後に一汗、終わって帰りに一杯。選挙も気になつたが、ひと風呂浴びたらバタンキュー。



全国大会に参加した感激
丸之内第一教場 木村 誠一

六月廿五日川崎市教育文化会館に於て開催された「横山岳精吟道六五周年記念全国吟道大会」に参加させて頂きました。バスの中から会場が見え、参加者の長蛇の列に先ず圧倒され、私ごとき新人が果たしてこの巨大な輪の中に入れるのだろうかと不安と緊張で一杯でしたが、会場に一歩入ると両手・大熊両先生、江口さん等の先輩方が晴れがましくも柔軟な笑顔でお迎え下さり、次第に岳精会の一員として参加を許された事の実感で嬉しさが倍増しました。

横山岳精吟道六五周年
記念大会に参加して

東陽町教場 植村 務

初めて全国吟道大会に参加する。裏方として、前日は案内板作りと配置、慣れぬ事ゆえ画面に従つて行なうも、内容が異なつていたりで中々合わず、階段を昇つたり降りたり、毎年の事なのに段取り悪いとの声：汗びっしょり。

当日朝は、外廻り看板設置等が終わりヤレヤレと思つたら合吟の大舞台へ、本番では会長の口元に合

『私の心に残る一詩』その二

副会長 磯田 真風

興遺吟

伊達 政宗

馬上青年過

時平白髪多

残駄天所許

不樂復如何

十五年前、往時の教場長「現飯田会長」より墨痕鮮やかな色紙を戴いた。誠に平易で馴染み易い漢詩であった。この詩が私の岳精会の詩吟入会の動機となつた。会社生活もあと僅か三年後に控えていた頃のことである。

転勤転居「宇都宮、東京本社、名古屋、前橋、富山、高岡、静岡、沼津、東京本社各部」場所毎の出会いと別れ、思い出が走馬灯の如く廻つて、やつと落ち着きを取り戻した当時の事である。

将に「馬上青年過ぐ」の心境である。そして三年後の退職時、お別れの会には社友吟友に囲まれて吟じて戴いた。

「残駄は天の許す所樂不して復如何せん」そのものの心境であつた。

爾來沢山の漢詩との出会いがあつた。杜甫、李白、杜牧、白居易等々。これらの詩は将に私にとつて吟楽の動機であり、多数の吟友との出会いの詩でもあつた。

捨て、ここまで記して、ふと考えた「馬上青年過ぐ」は俺一人だけだつたるうか？ 否、長年苦楽

を併にした老妻もまた戦友として併に歩んで来たではないかと。

「残駄はまた妻と併に樂不して如何せん」と思う今日この頃である。

吟友（とも）よ有難う。

吟楽人生感謝

「不争又不力」自適の日々を謳歌

晚年往時を偲びつつほろ苦く想を述べた詩に現在の心境を託して結びとしたい。

晩年往時に瀕死する杜牧が晩年に瀕死する杜牧が

述べた詩に現在の心境を託して結びとしたい。

船上一棹百分空 大杯に並々と注

禪院題 杜 牧

十載青春不負公 任地や各地での

豪遊

只今は白髪の目立つ老駄を禪院

のほどりで茶を煮る煙と風

に吹かれ落ちる花をほろ苦く眺

めているだけ

千代田の吟友が集う温習会中野ゼロホールで

全教場が一堂に会し、一年の練習成果の集大成としての今年の温

習会は、JR中野駅に近い区の施設で開催と決まりました。

日 時 十一月三十日（木）

九時四十五分集合

細谷 伸子さん（五月入会）

詩吟上達アラカルト⑤

明治生命O.B. 在職時の縁で上田真也氏の紹介、邦楽の素養があり声質、節調共に素晴らしい飛行、並み居る先輩をびっくりさせました。

詩吟上達のために、詩吟の伴奏を学ぶことを、つまり楽器を利用することをお勧めしたい。

前回、詩吟の主音は「ミ」で「ミ」で始まって「ミ」に終る話をした、それにはその「ミ」を知るのに

一 調子笛を利用する

調子笛には①から⑫まで記号があり、そこを吹けば（例えば①）一本②を吹けば二本の夫々「ミ」の音が出る、漢詩の最初と最後の中音「ミ」が①の音に合えば、高さはOKです。

二 邦楽伴奏器

節調（旋律・節回し）を知るのに最適、先ず一本、二本：と本数を合わせ、指でドレミ：

と音を出してみて、凡そ覚える迄遊んで見る。次に先生のテープを聞きつつ節調を何回も奏してみると、要は回数である。

三 原むつ子さん（七月入会）

茶道・日本料理の先生、小柄な体躯に一杯のエネルギーを詰めて大活躍。家ではカラオケセットで日々ご主人と競演、声を鍛えているとのことです。それもあってか吟声明々舞台度胸も十分、本荘さんの紹介です。

細谷 伸子さん（五月入会）

明治生命O.B. 在職時の縁で上田真也氏の紹介、邦楽の素養があり声質、節調共に素晴らしい飛行、並み居る先輩をびっくりさせました。

詩吟上達アラカルト⑤

細谷 伸子さん（五月入会）